

vol.

Governor's 10

Monthly Communication

2026.04.01

Rotary International District 2690

2025-26

2025-26年度

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ

国際ロータリー第2690地区(鳥取・島根・岡山)

2025-26年度地区ガバナー 坂口 元昭



橋本興家「春 砂丘連作の内」

環境月間に寄せて	02
米山記念奨学生 歓送会	03
第8・第9 グループIM開催報告	04
2025-26年度ロータリー財団 地区補助金奨学生報告	06
地区だより	08
出席報告	09

Rotary
District 2690



よいことの
ために
手を取りあおう

環境月間に寄せて

地区ガバナー

坂口 元昭



日頃より各クラブの皆さまには、地区活動への深いご理解と温かいご協力を賜り、心より感謝申し上げます。日々の例会や奉仕活動を通じて、地域社会に確かな変化を生み出しておられる皆さまのご尽力に、深く敬意を表します。

さて、4月はロータリーの「環境月間」です。環境は、私たちの暮らしを支える最も基本的な基盤であり、未来の世代へと引き継いでいくべき大切な財産です。世界では気候変動や自然環境の変化が大きな課題として語られていますが、その課題は私たちの地域社会とも密接に関わる問題であります。

ロータリーでは、2020年に「環境」が新たな重点分野として加えられました。人々の健康や生活、地域社会の持続可能な発展を支えるうえで、自然環境の保全が欠かすことのできない要素であるという認識が、世界中のロータリアンの間で共有されたからであります。環境を守ることは、単に自然を保全することにとどまらず、地域社会の未来を守ることにつながる大切な活動であります。

私たちの第2690地区には、豊かな自然があります。四季折々に表情を変える山々、そこから生まれる清らかな水、里山の風景、そして海へと続く自然のつながり。こうした環境は、長い年月の中で地域の人々が守り育ててきた、かけがえのない財産です。私たちはその恵みの中で暮らし、多くの恩恵を受けています。だからこそ、その価値を理解し、次の世代へと確かに引き継いでいく責任があります。

地区内の各クラブにおいても、植樹活動や海岸・河川の清掃、里山の整備、地域の子どもたちへの環

境教育など、さまざまな取り組みが行われています。これらの活動は、一つ一つは決して大きなものではないかもしれませんが、その積み重ねこそが地域の自然を守り、環境への意識を育て、未来への希望をつないでいく大きな力となります。環境を守る取り組みは、特別なことから始める必要はありません。

身近な自然に目を向けること、地域の環境を守る活動に参加すること、そして次の世代に自然の大切さを伝えていくこと。そうした一つ一つの行動が、やがて社会全体を動かしていく力になります。

本年度、2025-26年度の地区テーマ「よいことのために、手を取りあおう」のもと、地区の皆さまとともに歩んでまいりました。環境という課題に向き合うときこそ、この言葉の意味がいつそう深く感じられます。一人の力には限りがありますが、志を同じくする仲間と力を合わせることで、地域に確かな変化をもたらすことができます。クラブ同士、地域社会、そして次の世代と手を取りあいながら、未来へとつながる環境保全の輪をさらに広げていきましょう。

環境を守るという行動は、未来への贈り物でもあります。私たちの取り組みが、子どもたちや若い世代にとって希望となり、豊かな自然とともに生きる社会を築く礎となることを願っております。

結びに、各クラブにおかれましては、本月間を機に改めて地域の自然や環境に目を向け、未来へつながる奉仕活動をさらに推進していただきますようお願い申し上げます。皆さまのご健勝と、各クラブのますますのご発展を心より祈念申し上げます。

地区米山学友会総会と 地区米山記念奨学生歓送会 開催

地区米山記念奨学委員長

波多野 和雄



2026年2月15日(日)、ANAクラウンプラザホテル米子において地区米山学友会総会と地区米山記念奨学生歓送会を開催いたしました。午前中開催の地区米山学友会総会では、坂口元昭地区ガバナーの開会挨拶に続き、ご来賓の(公財)ロータリー米山記念奨学会学友委員の何玉翠様のご挨拶の後、地区米山学友会会長の南宗君様の挨拶と地区学友会活動報告が行われました。

午後開催の地区米山記念奨学生歓送迎会は、ご来賓として(公財)ロータリー米山記念奨学会評議員の岩崎陽一様、同学友委員の何玉翠様、RI3482地区米山記念奨学委員会副委員長の北山治信様。又、坂口元昭地区ガバナー、金谷晋爾地区ガバナーエレクト、高山真司地区ガバナーノミニーをはじめ多くのガバナー補佐様、地区役員及び地区委員、地区学友会委員の皆様。そして本年度奨学期間を満了する奨学生および各世話クラブの米山カウンセラーの皆様のご出席のもと開催させていただきました。

まず、坂口元昭地区ガバナーの開会挨拶に続き、(公財)ロータリー米山記念奨学会評議員の岩崎陽一様よりご祝辞を頂戴しました。

続いて、坂口元昭地区ガバナーより奨学生にはロータリー米山記念奨学生終了証を、カウンセラーの皆様には感謝状を、それぞれ贈呈いたしました。そして奨学生一人一人から思い出や活動の報告と感謝の言葉、米山カウンセラーからは奨学との交流の様子、将来へのエールの言葉などが語られました。米山記念奨学事業の意義や今後の事業への期待等で、有意義な感動的なスピーチとなりました。

次に、地区米山学友会役員のうち、チウン・ディアン・クォア様より学友会活動への参加勧誘、地区米山学友会会長の南宗君様からは、この度新たに学友会員となる奨学生に対して改めて学友会の意義や活動に参加するようスピーチがありました。

最後に、金谷晋爾地区ガバナーエレクトより、奨学生に将来への期待と母国と日本の懸け橋となってくださいと、また米山カウンセラーの皆様には感謝の言葉をいただきました。

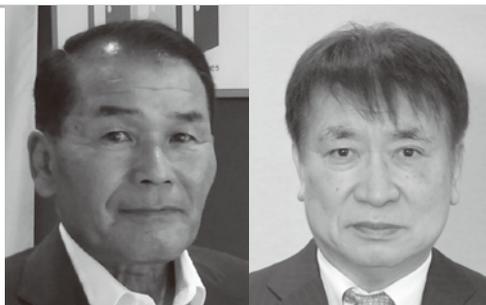
閉会後には、全員で記念写真を撮ったり、これからの学友会活動の連絡のためのメールアドレス交換があったりと、有意義で和やかな会が実施できたことをご報告申し上げます。



第8・第9グループIM開催報告

第8グループガバナー補佐 **前原 知明** (津山中央RC) (写真左)

第9グループガバナー補佐 **松井 浩明** (岡山後楽園RC) (写真右)



国際ロータリー第2690地区第8・第9グループ合同インターシティミーティング(IM)を、2026年2月8日、岡山プラザホテルにおいて開催いたしました。おかげをもちまして約300名のご参加を賜り、盛会のうちに開催できましたことを心より御礼申し上げます。

ご参加いただきましたロータリアンの皆さまならびに運営にご尽力くださいました、坂口地区ガバナーはじめ、関係者の皆さまに心より感謝と御礼を申し上げます。

本IMは、ロータリーの目的と活動への理解を深め、その理念を共有することにより、より充実した奉仕活動へとつなげていくことを目的として開催されました。ご講演者の方からは貴重なお話を賜り、多くの学びと示唆に満ちた実りある会となりました。私たちは、奉仕を通じて親睦を深め、職業倫理を高め、社会奉仕と世界平和への貢献を実践するというロータリーの使命を、改めて確認する機会となりました。

基調講演(1)では、ロータリー日本財団評議員で

あり益田西ロータリークラブ所属の松本祐二パストガバナーより、「ロータリーのあれこれ」をテーマに、質疑を交えながら、ロータリーの本質は知り合いをつくり、仲間を育み、奉仕を通して人生を豊かにしていくことにあるとのお話をいただきました。また、現場を知り、実際に行動することで活動の意義が深まり、さらなる喜びと達成感につながることを教えていただきました。さらに、衛星クラブの取り組みを通じて将来のクラブを育てていく新たな可能性についてもご紹介いただきました。ポリオは現在、アフガニスタンとパキスタンのみに残され、根絶まであと一步の段階にあります。これはワクチン投与をはじめとする世界的な努力の成果であり、ロータリーの誇るべき活動の象徴でもあります。このような活動を若い世代に伝え、若者が主体的に参加できる環境を育んでいくことが大切です。友情と友好の輪を広げながら仲間を増やし、活動を通して人生を豊かなものにしていく。楽しく活動することこそがロータリーの魅力であるとの温かいメッセージをいただきました。



基調講演(1)

基調講演(2)では、岡山後楽園ロータリークラブ会員であり岡山大学法人岡山大学的那須保友学長より、「不易流行 ― 地域・地球、そしてロータリーの未来を考える ―」をテーマに、学生を社会へ送り出すためには県、市、そして企業との連携が不可欠であり、2050年を見据えた長期的な視点で地域社会の未来を考えることの重要性についてお話いただきました。ロータリーは、地域、日本、そして世界の未来にどのように関わっていくのか。そのためには、若い世代の入会を促し、ともに活動する仲間を広げていくことが不可欠です。不易流行の精神のもと、変えてはならない価値を守りながら、新しい時代の課題に向き合っていくことが求められています。SDGsへの取り組みは、ポリオ根絶活動とも深く結びついています。ロータリーに関わるすべての人に幸福をもたらすという観点から、Well-Beingの理念はSDGsの中心的な価値でもあります。また、多様性を尊重し、若者、女性、外国人など志を持つすべての人が活躍できる環境を整えることが重要です。ポリオ根絶をはじめとする魅力ある活動を広く発信し、入会者の増加につなげていく。そして帰属意識をもって地域社会に関わることを、これからのロータリーに求められています。岡山大学ローターアクトクラブ(約40名)は、SDGsの理念のもと地域や地球を見据えた活動を実践しています。不易流行の精神を大切にしながら、新しい時代のロータリーのあり方をともに考え、未来へ向けて歩みを進

めていくことの大切さを改めて感じる講演となりました。

懇親会は、佐藤芳郎元RI理事のご発声により開宴し、アトラクションでは生田流箏曲音楽院代表の砂崎知子様による箏の演奏が披露され、和やかで格調あるひとときを過ごしました。料理は先付料理とコーナー料理で提供され、円滑な進行のもと予定どおり進めることができました。ロータリアン同士の友情と親睦を深めることができ、最後は出席者全員による「手に手つないで」を合唱し、和やかなうちに閉会となりました。

本IMを通して得た学びと友情を糧に、ロータリーの理念を胸に、地域社会と世界のより良い未来の実現に向けて、これからも歩みを進めてまいります。



基調講演(2)



懇親会

2025-26年度ロータリー財団 地区補助金奨学生報告

地区補助金奨学生

小板橋 有香



1. 学業面での成果

ハワイ大学マノア校では秋学期と春学期の二学期制が採られており、2025年12月に秋学期を終え、2026年1月より春学期が始まりました。現在も図書館や寮での学習を中心に、日々授業準備と研究に取り組んでいます。

秋学期には、必修科目である古典社会学理論、質的研究セミナー、専門科目の社会学最新課題(プロセミナー)の3科目を履修し、AおよびA-の成績を収めることができました。特に古典社会学理論は難度が高く、留学生が高評価を得ることは容易ではないと聞いていたため、A-を取得できたことは大きな自信となりました。

この成果の大きな要因は、授業内プレゼンテーションにおける工夫でした。ペアで理論を説明し、クラスディスカッションをファシリテートする形式でしたが、英語での即時対応に不安を感じていました。そこで、ペアの学生が教授役、私が理論を学ぶ学生役とするロールプレイ形式を提案し、議論が自然に展開する構成を組み立てました。自身の弱みを補うだけでなく、授業全体が理解しやすくなる構成を意識した結果、教授・学生双方から高い評価を得ることができました。この経験は、語学的制約があっても工夫と準備によって貢献できることを実感する機会となりました。

春学期は以下の3科目(計10単位)を履修しています。

- 回帰分析および統計分析演習 (Regression Analysis)
- 人種とエスニシティの社会学 (Race and Ethnicity)
- フェミニズム研究と質的調査法 (Feminist Theory and Methods)

統計の授業ではデータ分析の理論と実践を学び、研究の方法論的基盤を強化しています。「Race and Ethnicity」では、民族、国籍、アイデンティティの形成や変容、多民族社会における関係性を理論的に学んでおり、私の研究テーマである「同調圧力」と多様性の関係を考察する重要な土台となっています。特に、ナショナリズムがいかに境界を作り出し、どのような集団が包摂され、あるいは排除されるのかという理論的議論は、日本社会における「空気」や暗黙の同調圧力を再考する上で示唆に富むものです。また、多民族社会や移民問題、歴史的差別の構造を扱う内容は、ロータリーの掲げる「世界理解と平和の推進」と深く通じる学びであると感じています。異なる背景を持つ人々がどのように共存しうるのかを理論と実証の両面から考えることは、単なる学術的関心を超え、社会的実践へとつながる重要な視点だと実感しています。

「Feminist Theory and Methods」は、ジェンダー平等やワークライフバランスが進みにくい日本社会の構造を分析する上で不可欠な科目です。この授業は女性の権利に限定されるものではなく、社会の中にある見えにくい不平等や支配構造を可視化し、それらがどのように再生産されているのかを理論的に検討します。アメリカでは、ジェンダー問題だけでなく、人種差別や貧困、移民の問題などが横断的に議論されます。周縁化された人々の歴史や語りにも真摯に向き合う授業環境の中で、安易な一般化を避け、複雑な現実を丁寧に捉える姿勢の重要性を学んでいます。これはロータリーの「奉仕」「公平」「平和」の理念と重なるものであり、誰もが尊厳をもって生きられる社会を構想するための理論的基盤であると感じています。

2. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、 カウンセラーとの交流

今学期も必修科目が月曜日に重なり、定例会への参加が難しい状況ですが、The Rotary Club of Honolulu Sunrise代表のDavid Mozdren氏から「学業を最優先に」と温かい言葉をいただき、大きな励みとなっています。今後、可能な形でクラブ活動への参加機会を広げていきたいと考えています。

このロータリークラブのメンバーであるJune J. Nakamura氏(日系三世)には、「キャリアと家庭の両立の中で伝統的ジェンダー規範とどう葛藤してきたか」というテーマでインタビューさせて頂きました。彼女は現在70歳で経営者として現役で活躍し、2度の離婚を経験しながら2人の子どもを育て上げた方です。

彼女は、日系男性との結婚生活においては子育てへの協力が限定的で、日本的な家父長的価値観が色濃く残っていたと語りました。また、母親世代には「夫は家事をする必要がない」という価値観が存在していた一方で、自身の娘世代にはその意識が薄れていることも指摘していました。さらに、日本で建築の仕事に携わった際、女性であるという理由で十分に評価されなかった経験についても率直に語ってくれました。日系アメリカ人、日本からの移住者、日本在住者という三層比較の視点から、多様な価値観が個人の生き方にどのような影響を与えるのかを探る第一歩となりました。

また、別の会員であるLaura Arnone氏とも交流を深め、彼女およびご家族と、日本とアメリカにおける女性の仕事と家庭の両立について意見交換を行いました。文化や社会制度の違いが、女性の生き方や選択にどのような影響を与えるのかを率直に語り合う貴重な機会となりました。こうした出会いは、研究対象へのアクセスにとどまらず、ロータリーが人と人を結び、学びと実践を往復させる場であることを実感させるものです。

こうした交流の広がりの中で、David会長からは、境港ロータリークラブの会員がハワイを訪問する機会があれば、ホノルル・サンライズ・ロータリークラブとの交流の場を設けたいとの前向きなお話も頂いています。両クラブをつなぐ役割を担うことができればと考えています。

奉仕活動の面では、現在、Dr. Rost-Banikが主導するシビックエンゲージメント型授業において、TA(大学院生助手)として学部生の指導補助や課題の評価・フィードバックを担当するなど、教育活動にも携わっています。小学校の放課後学習支援や地域資源保全活動など、学問と社会奉仕を結びつける実践に携わることで、将来日本でも応用可能な仕組みを学びたいと考えています。

今学期も必修科目が月曜日に重なり、定例会への参加が難しい状況ですが、The Rotary Club of Honolulu Sunrise代表のDavid Mozdren氏から「学業を最優先に」と温かい言葉をいただき、大きな励みとなっています。今後、可能な形でクラブ活動への参加機会を広げていきたいと考えています。

このロータリークラブのメンバーであるJune J. Nakamura氏(日系三世)には、「キャリアと家庭の両立の中で伝統的ジェンダー規範

とどう葛藤してきたか」というテーマでインタビューさせて頂きました。彼女は現在70歳で経営者として現役で活躍し、2度の離婚を経験しながら2人の子どもを育て上げた方です。

彼女は、日系男性との結婚生活においては子育てへの協力が限定的で、日本的な家父長的価値観が色濃く残っていたと語りました。また、母親世代には「夫は家事をする必要がない」という価値観が存在していた一方で、自身の娘世代にはその意識が薄れていることも指摘していました。さらに、日本で建築の仕事に携わった際、女性であるという理由で十分に評価されなかった経験についても率直に語ってくれました。日系アメリカ人、日本からの移住者、日本在住者という三層比較の視点から、多様な価値観が個人の生き方にどのような影響を与えるのかを探る第一歩となりました。



David会長とJune

また、別の会員であるLaura Arnone氏とも交流を深め、彼女およびご家族と、日本とアメリカにおける女性の仕事と家庭の両立について意見交換を行いました。文化や社会制度の違いが、女性の生き方や選択にどのような影響を与えるのかを率直に語り合う貴重な機会となりました。こうした出会いは、研究対象へのアクセスにとどまらず、ロータリーが人と人を結び、学びと実践を往復させる場であることを実感させるものです。

こうした交流の広がりの中で、David会長からは、境港ロータリークラブの会員がハワイを訪問する機会があれば、ホノルル・サンライズ・ロータリークラブとの交流の場を設けたいとの前向きなお話も頂いています。両クラブをつなぐ役割を担うことができると考えています。

奉仕活動の面では、現在、Dr. Rost-Banikが主導するシビックエンゲージメント型授業において、TA(大学院生助手)として学部生の指導補助や課題の評価・フィードバックを担当するなど、教育活動にも



Lauraとご子息の奥様

携わっています。小学校の放課後学習支援や地域資源保全活動など、学問と社会奉仕を結びつける実践に携わることで、将来日本でも応用可能な仕組みを学びたいと考えています。

3. 直面した課題、問題点等

大学院生活は、学業のみならず生活面でも多くの課題を伴います。制度や手続きの違いに戸惑いながら、「サバイブ」という言葉の意味を実感する日々です。特に現在は住居問題に直面しています。契約更新条件の変更により新たな住居を探す必要が生じ、クレジットヒストリーの問題や契約条件など、日本とは異なる制度に戸惑いながら対応しています。しかし、こうした困難もまた、異文化の中で自立して生きる力を養う過程であると受け止めています。

その一方で、サンクスギビングや旧正月の集まりなど、多様な文化的背景を持つ友人たちとの交流を通して、人とのつながりが大きな支えになっていることも実感しています。

そして、何よりハワイの明るい日差しと心地よい風は、こうした不安や緊張を和らげてくれます。特に雨上がりに現れる虹は美しく、その頻度も多いため、虹を見るたびに前向きな気持ちを取り戻しています。住む場所の気候や自然環境が、心のあり方にこれほど影響を与えるのかと実感しています。

4. 今後の課題、目標

留学期間の4分の1が過ぎました。今学期末までに研究プロポーザルの骨子を確定し、指導委員を決定する必要があります。各授業から得られる理論的・方法的知見を統合し、自身の研究テーマをより精緻化していきたいと考えています。ハワイ大学の教授陣は非常に協力的で、求めればそれ以上の助言を与えてくださいます。この恵まれた環境に感謝しつつ、より主体的に学びを深め、最終的には社会に還元できる研究成果をまとめたいと考えています。

ロータリー奨学生として支援を受けている責任を自覚し、今後も学業・研究・地域との交流を通じて、相互理解と平和に資する活動へとつなげていきたいと思えます。



キャンパスで見た虹

地区だより (2026年2月)

新会員のご紹介



ロータリー財団への寄付

メジャードナーレベル1 メジャードナーレベル2 ベネファクター(恒久基金) ポール・ハリス・フェロー(ポリオプラスへの寄付)



ポール・ハリス・フェロー(年次基金への寄付)



クラブ年次基金

智頭RC100.00ドル
 鳥取RC125.71ドル (ミリオンダラーミール)
 鳥取北RC420.00ドル
 益田RC 3,150.00ドル

倉敷南RC181.17ドル (ミリオンダラーミール)
 岡山RC 1,753.12ドル (ミリオンダラーミール)
 岡山東RC550.00ドル (ミリオンダラーミール)

クラブポリオプラス

井原RC550.18ドル
 笠岡RC161.14ドル
 真庭RC113.00ドル
 美作RC425.00ドル

米山記念奨学会への寄付

米山功労者



クラブ普通寄付

鳥取北RC 105,000円 総社吉備路RC 62,500円
 井原RC 95,000円 岡山備南RC 45,000円

クラブ特別寄付

笠岡東RC 24,960円 (米山ランチ)

出席報告 (2026年2月)

クラブ名	ホームクラブ 出席率 (%)	例会数	会 員 数				
			7月1日	2月末日	内女性会員	増減	
第1グループ	智 頭	96.88	4	7	8	0	1
	倉 吉	82.14	3	39	39	3	0
	倉吉中央	80.39	3	18	17	2	▲1
	倉吉東	63.24	3	48	47	5	▲1
	鳥 取	63.21	2	55	55	4	0
	鳥取中央	64.77	2	40	44	3	4
	鳥取北	71.05	3	41	41	7	0
	鳥取西	71.63	4	51	52	2	1
小計(8)	-	-	299	303	26	4	
第2グループ	境 港	68.89	3	48	49	1	1
	米 子	60.00	3	69	69	5	0
	米子中央	81.31	3	37	37	2	0
	米子東	67.62	3	109	111	12	2
	米子南	62.75	3	70	78	7	8
	小計(5)	-	-	333	344	27	11
第3グループ	松 江	69.88	3	55	60	1	5
	衛星クラブ	54.55	2	10	11	5	1
	松江東	76.29	2	51	52	3	1
	松江南	83.74	2	63	67	6	4
	松江しんじ湖	80.00	3	40	44	8	4
	隠岐西郷	71.67	3	22	21	0	▲1
小計(5)	-	-	241	255	23	14	
第4グループ	平 田	74.67	2	38	38	2	0
	出 雲	78.18	2	55	56	2	1
	出雲中央	73.47	3	48	49	3	1
	出雲南	73.48	3	77	82	6	5
	大 社	59.18	2	53	53	5	0
	小計(5)	-	-	271	278	18	7
第5グループ	江 津	67.69	3	42	45	3	3
	浜 田	71.58	3	59	61	5	2
	益 田	69.05	2	21	21	2	0
	益田西	61.76	3	33	34	2	1
	大 田	66.67	3	23	23	3	0
	小計(5)	-	-	178	184	15	6
第6グループ	井 原	77.00	3	35	38	2	3
	笠 岡	87.36	4	47	46	3	▲1
	笠岡東	82.99	4	39	38	2	▲1
	新 見	77.19	3	18	19	2	1
	総 社	62.50	2	12	12	2	0
	総社吉備路	82.00	2	28	25	1	▲3
	高 梁	64.71	2	34	34	1	0
	玉 島	76.32	4	28	30	6	2
小計(8)	-	-	241	242	19	1	

クラブ名	ホームクラブ 出席率 (%)	例会数	会 員 数				
			7月1日	2月末日	内女性会員	増減	
第7グループ	児 島	72.73	2	12	12	0	0
	児島東	85.19	3	9	9	0	0
	倉 敷	79.72	2	71	73	2	3
	倉敷中央	80.00	2	18	18	6	0
	倉敷東	79.07	2	24	24	4	0
	倉敷南	60.00	2	59	60	5	1
	倉敷水島	75.00	2	17	17	0	0
	倉敷瀬戸内	51.22	2	22	22	1	0
	小計(8)	-	-	232	235	18	4
第8グループ	真 庭	75.76	3	32	33	2	1
	美 作	70.83	3	25	24	1	▲1
	津 山	80.41	4	96	97	4	1
	津山中央	89.74	3	12	13	3	1
	津山西	94.38	3	32	31	5	▲1
	小計(5)	-	-	197	198	15	1
第9グループ	備 前	67.20	5	38	41	4	3
	岡 山	78.47	3	107	116	7	9
	岡山東	79.72	4	96	98	3	2
	岡山北西	74.00	3	48	50	5	2
	岡山後楽園	74.75	2	50	51	4	1
	小計(5)	-	-	339	356	23	17
第10グループ	岡山旭川	58.70	3	33	31	1	▲2
	岡山中央	52.68	4	24	28	9	4
	岡山北	58.65	2	51	52	5	1
	岡山南	66.67	3	152	151	22	▲1
	玉 野	71.11	3	24	30	1	6
	小計(5)	-	-	284	292	38	8
第11グループ	岡山備南	74.07	2	21	18	0	▲3
	岡 山 城	68.25	3	20	21	1	1
	岡山岡南	75.00	3	23	26	2	3
	岡山丸の内	57.74	4	43	42	2	▲1
	岡 山 西	61.95	3	64	72	14	8
	岡山西南	80.38	3	55	55	7	0
小計(6)	-	-	226	234	26	8	

地区クラブ内の状況

クラブ数	65RC
2025年7月1日会員数	2841名
2026年2月末日会員数	2921名
内 女性会員	248名
純増	81名

※7月1日会員数には、7月1日入会の新会員は含まれておりません。
 ※7月1日入会の新会員は、7月末日会員数に含めさせていただきます。
 ご了承をお願いいたします。